



ワークショップの様子

ワークショップ 「社会調査に役立つ統計分析：SPSSで学ぶ統計分析入門（後編）」開催

現代女性キャリア研究所（RIWAC）では、社会調査を利用する学生や大学院生及び研究者への研究支援プロジェクトとして、連続公開講座「社会調査に役立つ統計分析：SPSSで学ぶ統計分析入門（後編）」（講師：ニッセイ基礎研究所金明中先生）を2012年5月31日、6月14日、6月21日の日程で開催しました。

今回は、前編の基礎統計をもとに分散分析、相関分析、回帰分析など、より具体的な分析について学びました。

受講生からは「数字の掘り下げ方を解説して頂き大変役に立った」、「具体例が多くわかりやすかった」といった意見や、「アンケート結果事例分析の演習」「これまで習った手法をどの様なケースに応用するか教えてほしい」といった要望が多く寄せられました。



講師 金先生

教職調査を実施

2012年5月、日本女子大学教職教育開発センターと共同で「教職免許取得者のキャリアに関する調査」を実施しました。調査対象者は1991年から2001年までに本学で教職免許を取得した卒業生（2997名）で、卒業後のライフコースや職業キャリアについて尋ねました。683票回収し、現在データを集計・分析中です。



事例を基に子どもや障害者への対応を検討



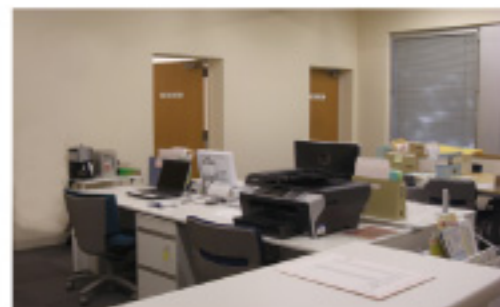
教科書を使って授業デザインに挑戦

再就職のためのワークショップ開催（教職教育開発センター共催）

教職教育開発センターと共催で2013年2月16日（土）、17日（日）の両日、「再就職支援のためのワークショップ」を開催しました。教職復帰を目指すキャリアブレイク中の女性教員や教職への転職を目指す女性等を対象に最新教育事情の理解や指導方法のスキルアップを支援する講座です。「授業づくり」、「学級経営」、「服務規定及び保護者への対応」、「特別支援教育」の4テーマを柱にグループ討論などアクティビティを盛り込みながら「学校現場の今」を学びました。受講者はキャリアも年齢も多様な女性7名。各テーマ3時間という長時間の講座にも関わらず終了後も講師への質問が続くなど、受講者の再就職への意欲が感じられました。「不安なことが軽減され、やる気が増した」、「学び直しができて嬉しかった。現場で本当に必要な知識を知ることができた」、「時間があつと言う間に経ってしまい、とても有意義な内容だった」という感想もいただきました。

おねがい

当研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ (<http://search.riwac.jp>) を公開しています。女性とキャリアに関する社会調査資料をおもちの方は、ご協力をおねがいいたします。



紀要を配布しております

2012年度紀要（第4号）ができました。こちらの紀要は送料のみご負担いただくかたちでお付けしております。ご希望の方は、切手（1冊240円、2冊以上ご希望の方は当研究所までお問い合わせください）を貼った返信用封筒（B5サイズ）を同封の上、ご希望の冊数を明記し、当研究所へお申し込みください。また、2012年度紀要（第4号）より投稿論文も受け付けています（詳細は研究所HP参照）。ご返信をお待ちしています。



Research Institute for Women and Careers
NEWS LETTER
 RIWAC

RIWAC

日本女子大学
 現代女性キャリア研究所
 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1
 TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381
 e-mail riwac@fc.jwu.ac.jp
 RIWAC ホームページ
<http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/riwac/>

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（2011年～2015年）

プロジェクト名	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
「女性とキャリアに関する調査」	●Web調査実施	●分析 ●調査報告書発行			
リカレント教育支援生調査 「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」	●プレ調査実施	●アンケート調査実施	●分析 ●新プログラム提案	●再就職支援プログラム試行	●プログラム評価
就職調査 「就職免許状取得者のキャリアに関する調査」		●アンケート調査実施 ●分析	●分析 ●新プログラム提案 ●調査報告書発行	●再就職支援プログラム試行	●プログラム評価
自治体/経営者団体調査			●インタビュー調査		
データアーカイブ		●日本女子大学卒業生調査データ化	●データアーカイブの運用と拡充		
シンポジウム	「災害復興と女性の自立」	「女性の再就職支援と大学の役割—国際的経験の交流」	国内シンポジウム	国内シンポジウム	プロジェクト成果の報告
ワークショップ	「SPSSで学ぶ統計分析入門」(前期)	●「SPSSで学ぶ統計分析入門」(後期) ●「再就職支援のためのワークショップ」(就職教員研修センター共催)			
プロジェクト報告書			●中間報告書発行		●最終報告書発行

米・仏・韓・日の研究者を招いて国際シンポジウムを開催
「女性の再就職支援と大学の役割—国際的経験の交流」

2012年12月8日 於：日本女子大学新泉山館大会議室 1F



2012年12月8日（土）、日本女子大学新泉山館にて、アメリカ、フランス、韓国、日本から、女性のキャリア支援に携わる専門家をお招きし、女性のキャリア形成とそこで果たすべき大学の役割についての国際シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、冒頭、本シンポジウムのコーディネーターである日本女子大学の沢真知子教授から、「女性とキャリアに関する調査」（当研究所が実施）の調査結果を用いた、日本の働く女性の現状が報告されました。続いて、アメリカのヴァージニア大学のコニー・イングリッシュ先生が、ヴァージニア大学における再就職支援のためのさまざまなプログラムについて報告をされ、さらに、韓国梨花女子大学の郭三根先生からは、梨花女子大学における就労支援の取り組みが紹介されました。フランス国立応用科学院ストラスブール校のシャーリーン・ミレー先生からは、フランスの労働市場における男女格差についての報告がなされ、昭和女子大学副学長の小原奈津子先生からは、昭和女子大学の「ママチャレ」（女性の学び直し・再就職支援プログラム）の取り組みや成果が報告されました。

女性のキャリア形成に関して、各国がどのような事情を抱え、それに対し大学がどのような取り組みを始めているのかが一望できる、有意義な報告でした。

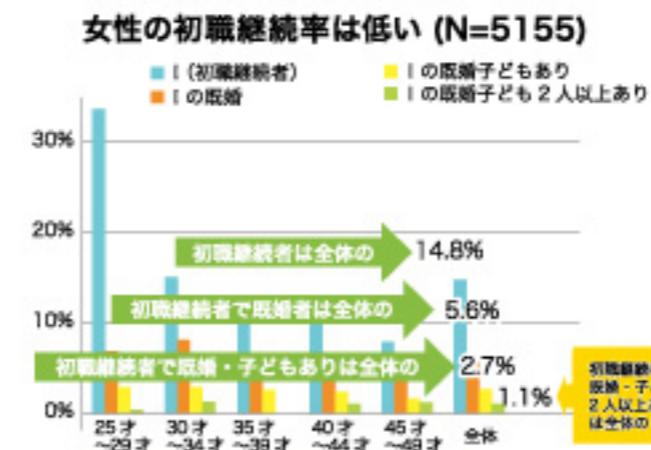
その後、報告者が一堂に会し、女性のキャリア支援の方向性と大学が果たすべき役割について、フロアも交えての討論がなされました。女性の再就職には、スキル・アップのための支援だけでなく、メンタルな面での支援も重要であること、またそれも一度のみならず、キャリアの断続に応じて何度でも支援していくような取り組みが必要であることなど、さまざまな角度から問題提起がなされました。

このシンポジウムの記録は、来年度の当研究所の紀要『現代女性とキャリア第5号』（7月刊行予定）に掲載されます。ご関心をお持ちの方は、当研究所までお問い合わせください。

「女性とキャリアに関する調査」～5155人のキャリアの軌跡～

現代女性キャリア研究所では、2011年度に女性の能力活用と職業中断後の再就職支援のための大学教育プログラム開発を目的に、首都圏に住む短大・高専卒以上の女性を対象とした大がかりな調査を実施しました。2012年度はこの調査結果をふまえ、女性の就労継続や断続をめぐる問題について、さまざまな形で報告、問題提起をしてきました。そのなかから、本調査が明らかにした興味深い結果をいくつか、ご紹介したいと思います。

女性のキャリアは断続している



■なお、詳しい調査結果は、下記の当研究所・ホームページ上で公開しております。また、3月には「調査報告書」を発行します。
「女性とキャリアに関する調査」結果報告書
<http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/riwec/img/houkokusyo.pdf>

就業経験者 5094人の就労パターン
子どもなし層においても、8割が初職を辞めている

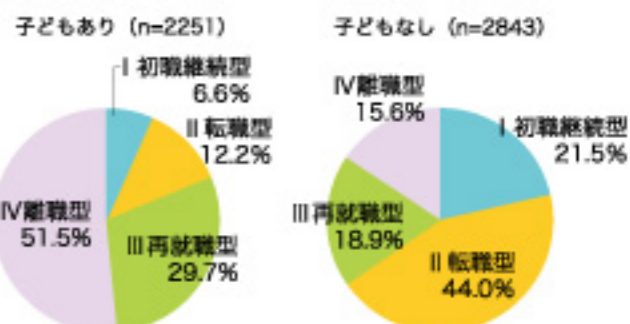


図2 子どもがいない女性においても初職継続者は2割に過ぎない。

非正規でキャリアをスタートした人

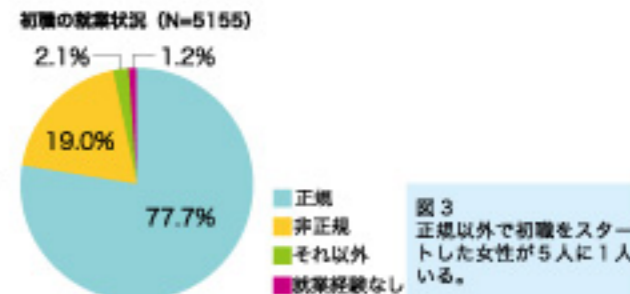


図3 正規以外で初職をスタートした女性が5人に1人いる。

国立女性教育会館の夏のフォーラムにてワークショップを実施



2012年8月25日（土）、国立女性教育会館にて開催された「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWE Cフォーラム）」にて、ワークショップを実施しました。テーマは、「就労支援として、いま何が求められているのか～（女性とキャリアに関する調査）5155人の調査結果から～」。女性の就労実態や就労意識について6人の研究員がそれぞれの視点から報告、その後、女性の就労支援の現状や方向性について、フロアとの意見交換を行いました。

第85回日本社会学会大会にて報告

2012年11月4日（日）、札幌学院大学にて開催された第85回日本社会学会大会の「産業・労働・組織」部会において「女性とキャリアに関する調査」の報告を行いました。

研究員それぞれが調査結果にもとづき、分析視点を変えて5つのテーマを設定、第1報告の「ライフコース5パターンの特徴に焦点をあてて」では、初職継続、転職、再就職、離職など女性のキャリアパターンに着目し、それぞれの特徴を明らかにしました。第2報告「就労意欲と断続するキャリア」では、女性の転職・再就職行動に焦点をあて、キャリアが断続する要因が、従来指摘されてきた家庭要因とは別にあることを主張しました。第3報告「初職が「非正規」雇用の人に注目して」では、非正規雇用でキャリアをスタートした女性たちの、その後の軌跡をたどり、第4報告「氷河期世代」と「氷河期前世代」に着目して、社会・経済状況との関連から、女性の就労意識の変化を明らかにしました。最後に、第5報告「夫婦の対等性と妻の経済的自立に焦点をあてて」では、妻の就労が夫婦関係に与える影響についての分析結果を提示しました。本報告の成果は、まもなく発行される「調査報告書」に論文として収録します。